

HPV

目次

HPV（とびら）	107
私の被害と訴え（匿名原告）	108
私がHPVワクチン接種を受けるまで.....	108
HPVワクチン接種後に現れた症状	108
学校生活等について.....	109
病院の対応について.....	109
新たな症状の出現と継続していた症状.....	110
学習能力・記憶能力の低下、味覚・嗅覚の異常	110
通信制性の高校への進学	111
HPVワクチンによる副反応と診断	111
現在の生活	111
・私が望むこと	112
HPVワクチン薬害訴訟について	113
第1 はじめに	113
第2 子宮頸がんとHPVについて.....	113
第3 HPVワクチンと予防接種について.....	115
第4 問題になっている副反応について.....	116
第5 被害者の救済.....	118
原告本人作成のチラシ.....	120

私の被害と訴え

HPVワクチン薬害大阪訴訟原告24番、20歳、広島県在住。

中学1年生の時にサーバリックスの接種を受けました。発熱、殴られるような頭痛、嘔吐、下痢、激しい倦怠感、学習障害、記憶障害等の症状が現われ、酷い時期は一日のほとんどを寝て過ごしました。

2019年7月19日にHPVワクチン薬害大阪訴訟の第三次原告となりました。現在、症状は改善してきていますが、体が重い、疲れやすい、耳鳴り、集中力が続かない等の症状があります。通信制の短期大学で図書館司書の資格取得を目標にしていますが、学習障害のため思うように単位取得ができていません。

私がHPVワクチン接種を受けるまで

私が中学校1年生の時、子宮頸がんワクチンの案内が届きました。学校の先生も、なるべく早く受けるように言っていたため、受けるのが当たり前なのだと思って、ワクチンを受けました。

接種を受ける時に、病院から腕が痛くなったり、腫れたりすることがあるとの説明を受けましたが、その他には何の説明もありませんでした。

それまで、私は、学校を休んだり、早退したりすることはほとんどありませんでした。読書が大好きで、学校で借りられる本だけでは足りず、毎週図書館に通い、毎月40冊ほどの本を読んでいた。幼稚園の頃からエレクトーンを習っていて、発表会に向けて練習に励んでいました。普通の充実した学校生活を送っていました。

そんな私の普通の生活は、ワクチンにより全く変わってしまいました。ワクチンを打ってから次々に起こる体の不調、そして、私がどんな思いで過ごしてきたのかについてお話しします。

HPVワクチン接種後に現れた症状

ワクチンの接種を受けた後、腕の痛み、腫れが生じ、皮膚が赤くなっていました。翌日から1週間くらい体がだるく、腕が上げられない状態が続きました。

約3か月後の夏休みに、熱が出て、ひどい寒気がするようになりました。夏なのにも関わらず、全身が寒く、真冬の服装で過ごし、カイロを使っていました。また、体に重石が乗っているように重く、体中に痛みが出ました。過眠の症状が現れ、寝て過ごすことがだんだん増えました。1日のうち18～20時間は寝て過ごしていました。

その翌月には、殴られたような頭痛、耳鳴り、吐気、嘔吐、下痢、腕が痺れ、力が入りにくい、突然眠くなるという症状が出ました。38度の高熱が続き、解熱剤を飲

んでも熱が下がりませんでした。ご飯を食べることができず、体重が一気に落ちました。衰弱のため歩くことができず、四つん這いで移動していた時もありました。37度台後半の微熱が続き、それが平熱という状況でした。少しでも無理をすると高熱がでました。

体が重くしんどい状態が続き、集中力もなくなり、趣味の読書もできなくなりました。大好きで何度も読んだことのある本なのに、内容が頭に入ってこず、理解ができません。もどかしくて、本を5分も読み続けることができなくなりました。

夏休みは、何をやる気にもなれず、ほとんど一日中寝て過ごしました。毎年、しょっちゅう行っていたプールに一度も行けませんでした。

学校生活等について

夏休みが明けて学校が始まっても、朝起きることができませんでした。それまでは6時に自然に目が覚めていたのに、体が重く、全く起きることができないのです。母が無理やり起こしてくれ、学校に車で送ってもらいました。学校に行っても2～3時間しか体力が持たず、早退や欠席を繰り返しました。無理して最後まで授業を受けると、翌日から寝込んでしまい、3日～1週間学校に行けなくなりました。

欠席や早退を繰り返していた私の状況を、仲の良い友達には理解してくれていました。しかし、クラスメイトからは理解が得られず、「サボリ」、「ずる休みなんですよ?」と言われていたそうです。友達が泣きそうになりながら教えてくれました。

秋には体育祭がありましたが、参加できませんでした。練習を一生懸命していたので、とても悔しかったです。せめて見るだけでもと思い、見学に行きました。その日は気温が30度あり、みんなが半袖で「暑い、暑い。」と言っている中、私は冬物の服に、ジャンパーを着込んで、見学へ行きました。結局、体育祭には3年間1度も出ることができませんでした。

幼稚園の頃から習っていたエレクトーンも、練習に行くことができなくなり、辞めてしまいました。

病院の対応について

発熱、嘔吐、下痢が続き衰弱が酷かったため、2週間ほど入院しましたことがあります。しかし、検査で異常がなかったため、精神的なものと言われました。私はストレスについて思い当たることがなかったのに、医師から精神的なものだと決めつけられ、家庭に問題があるかのような言い方をされ嫌な思いをしました。

その後も様々な症状が続き、病院を複数受診しましたが、原因がわかりませんでした。

ある時、ニュースで子宮頸がんワクチンの副反応のことがやっていて、私の症状とすごく似ていると思いました。それで、医師にワクチンの副反応ではないですかと尋ねました。しかし、医師は、「そんな症状は副反応に認められていません。」と頭ごなしに否定しました。全く治療を受けられないばかりか、まともに話を聞いてすらもら

えませんでした。「薬だけ出せばいいんですよね。」と言われたこともあります。

新たな症状の出現と継続していた症状

中学2年生の頃、ひどい生理痛、腹痛、足のむずむず感が現れました。生理痛は、立っていられず座り込むほどの痛さで、痛止めの薬を飲んでも10分ほどですぐに効かなくなりました。体がだるい、体力がなくすぐにしんどくなる、朝起きられないという症状がまだ継続していました。

担任の先生が、理解を示してくれ、無理をして次の日休むよりも、無理をせずに早退して、なるべく毎日学校に来た方が良いと提案してくれたため、授業を2～3時間受けて帰ることが増えました。寒気もまだ継続しており、制服の上に学校のジャージを着て授業に出ていました。

中学3年生の頃、少しずつ体力が回復し、授業を4時間目まで受けられることが増えました。微熱は相変わらず続いており、37.5度が平熱という状況でした。38度でも体調のいい日は学校に行ったり、37度でも体調が良くなかったりすると学校を休んだりしていました。

学習能力・記憶能力の低下、味覚・嗅覚の異常

学習能力や記憶能力の低下もあります。もともとは数学が好きで、公式を当てはめて、解けた時はすっきりしました。しかし、さっきまで覚えていたはずの数学の公式を思い出せなくなることが度々ありました。中学は、成績は良くありませんでしたが、なんとか卒業することができました。

中学のことは、卒業式のこと以外あまり覚えていません。友達から話を聞いたり、写真を見たりしても、そんなことあったっけと思い出せないことも多いです。

物忘れが激しく、何かひとつの作業をしていても、別のことに関心が移ればやりかけのまま別の行動に移り、前にやっていた作業を忘れてしまうということが多々あります。例えば、母から「お皿を運んでね。」と頼まれて、手伝っていたのに、途中で忘れて、そのまま放置してしまうのです。母から「途中だよ。」と指摘され、「あれ？終わってなかったっけ？」となる時もあります。

自分ではあまり自覚はありませんが、母から会話が成り立っていないと言われたこともあります。

これもまた自覚がないのですが、家族から日替わり味覚と言われています。「これ美味しくない。」というとき、家族から「この前、美味しいって食べてたよ。」と言われるのです。しかし、自分では食べたことを覚えておらず「そうだったっけ。」としか思えません。

また、嗅覚にも異変を感じています。夕食時に台所からサバの匂いがしたので、母

に「今日の夕食はサバ？」と聞くと、「え、お肉だよ。」というように、匂いが全く違うものの匂いを感じる事が度々ありました。

通信制性の高校への進学

高校は、家の近くにある、友達と同じ高校に行きたいと思っていました。しかし、先生から出席日数が足りないと留年すると言われ、通信制の学校を選ばざるを得ませんでした。

少しずつ体力が回復していましたが、月曜日から金曜日まで5日連続で通うことは一度もできませんでした。雨や台風、梅雨の時期は、体が重くて動けなくなり、全く学校にいけない週もよくありました。どこまで無理をすると寝込むのか自分の限界がわかってきたので、寝込むことは減りました。通信制の学校は、自分のペースに合わせて通えるのでとても助かりました。

HPVワクチンによる副反応と診断

高校1年生の時、HPVワクチンの副反応を診察してくれる医師がいると聞き、遠方でしたが受診したいと思いました。そこで、かかりつけ医に紹介状を書いてほしいと頼みましたが、拒否され、紹介状すら書いてもらえませんでした。他の医師に紹介状を書いてもらい、なんとか受診することができました。

医師は「他の病気が見つかるかもしれませんよ。ワクチンの副反応と先入観は持たない。」と言いました。「他の病気が見つかるなら、むしろそのほうが良い。ぜひお願いします。」と診察を受けました。

その結果、HPVワクチンによる副反応と診断されました。脳の検査では、血流が低下している部位があると指摘されました。ワクチンの副反応と診断されたことで、私の中でひと区切りがついた感じがしました。しかし、診断がされても、根本的な治療はありません。

現在の生活

現在は、高校を卒業し、通信制の短期大学に入学しました。図書館司書の資格を取りたいと考えています。

すでに入学して1年半以上が経ちますが、課題のレポートが全く提出できていません。課題に取り組もうと、教材を読んでも、内容が頭に入らず、どこを読んでいるのかもわからなくなります。考えていたこともわからなくなります。メモを取っても何かが書いてあるのかわかりません。何度も振出しに戻る状況です。やろうという気持ちはありますが、なかなか前に進みません。卒業できるのか不安があります。

未だに、体が重い状態がずっと続いています。頭痛も頻度は少なくなりましたが、針で刺されるような痛みがあります。

・私が望むこと

ワクチンの副反応と診断はされましたが、この病気に対する理解は得られていません。被害者の病状をきちんと調べることもせず、何もしないで副反応ではないと決めつけないでください。製薬会社は自分がつくった薬なのだから、責任もって対応してほしいです。

HPVワクチン薬害訴訟について

HPVワクチン薬害訴訟全国原告団

第1 はじめに

HPVワクチン（通称「子宮頸がんワクチン」とも呼ばれている）とは、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染予防を目的としたワクチンである。

現在日本ではグラクソ・スミスクライン社の「サーバリックス」およびMSD社の「ガーダシル」が販売されている。

HPVワクチンの接種開始直後から、接種を受けた主に中学生～高校生の女性たちに、多種多様な健康被害（副反応）が相次いで発生した。

2016年7月27日、HPVワクチン薬害の被害者らは、国及び製薬企業2社（グラクソ・スミスクライン社、MSD社）に対し損害賠償等を求める訴訟を全国4地裁（東京、名古屋、大阪、福岡）で同日一斉提訴した。HPVワクチン薬害訴訟である。

一次提訴2016年7月27日

二次提訴2016年12月14日

三次提訴2017年5月18日（名古屋地裁）

2019年7月19日（東京地裁、大阪地裁）

現在130名

第2 子宮頸がんとHPVについて

1 子宮頸がんとは

子宮頸がんは、子宮頸部（子宮の下方の狭い末端部）の組織に悪性（がん）腫瘍が認められる病気である。

子宮頸がんは、通常、一定の時間をかけてゆっくりと増殖する。

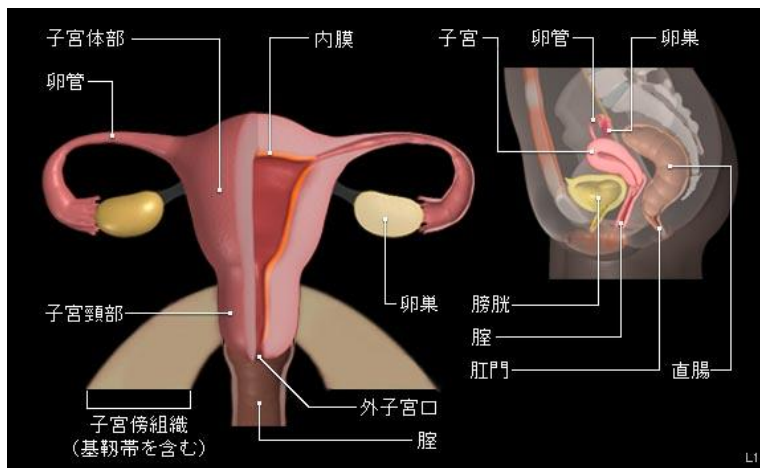
がんが子宮頸部に発見される以前の段階として、子宮頸部の組織に正常でない細胞が出現する。この変化を異形成（または前癌病変）という。

CIN1（軽度異形成）→CIN2（中等度異形成）→CIN3（高度異形成・上皮内がん）→ 浸潤がん という経過をたどる。

2 HPVと子宮頸がん

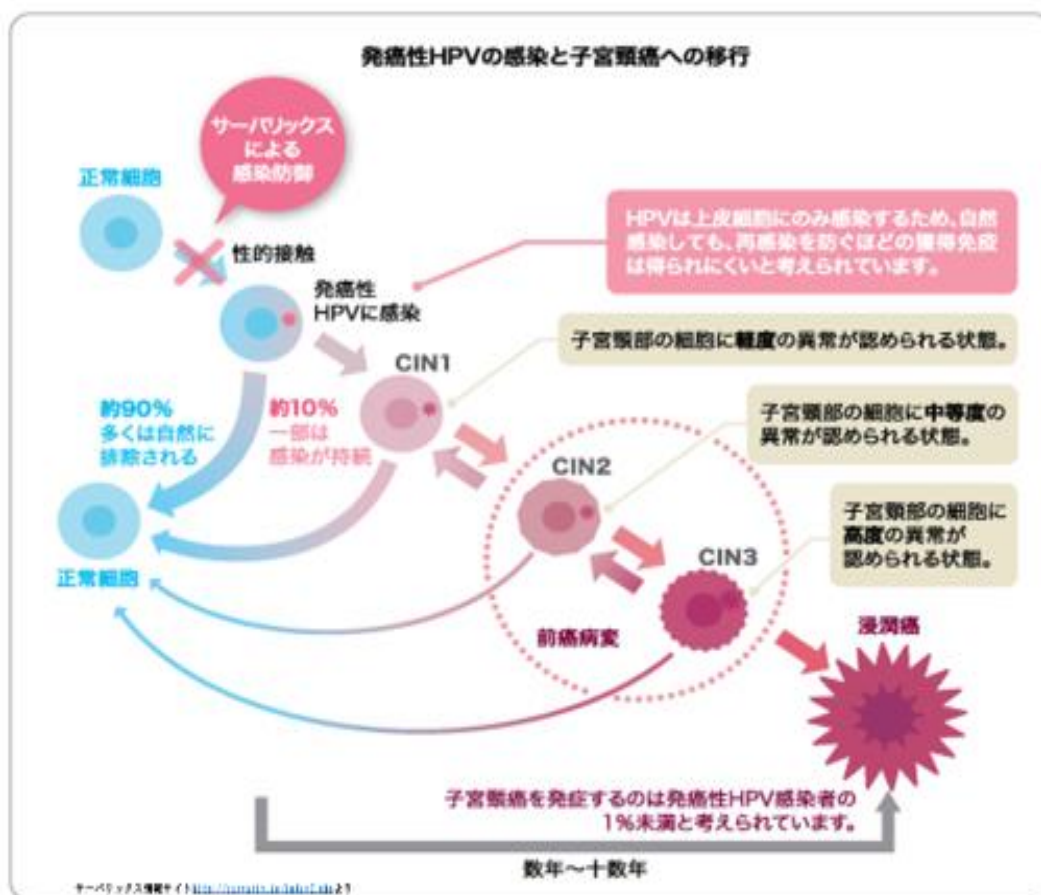
子宮頸がん発生の主要なリスク因子は、HPV感染とされている。

HPVは粘膜の接触によって感染するウイルスで、ほとんどが性交渉によって感染する。HPVはどこにでもあるありふれたウイルスで、性経験のある女性の約5～8割はHPV感染経験があると言われている。



国立がん研究センターがん情報サービス HP より

たとえHPVに感染しても、2年以内に90%の人は免疫の力でウイルスが排除されるが、10%の人は感染が長期間持続し、がんの前の段階である異型細胞が増殖する。感染が持続し、自然に治癒しないグループが子宮頸がんに進捗すると言われている（子宮頸がん発症に至るのは、HPV感染者の0.15%程度と言われている）



第3 HPVワクチンと予防接種について

1 日本におけるHPVワクチンの承認と予防接種等に関する時系列

- 2006(H18)年8月 HPVワクチン世界で初めて上市（米国でガーダシル承認）
- 2009(H21)年10月 サーバリックス承認
- 2009(H21)年12月 サーバリックス(GSK社)販売開始
- 2010(H22)年11月 自治体の公費助成開始(任意接種)
=厚労省がHPVワクチン等を対象にワクチン接種緊急促進事業を開始する
- 2011(H23)年7月 ガーダシル承認
- 2011(H23)年8月 ガーダシル(MSD社)販売開始
- 2013(H25)年4月 予防接種法に基づく定期接種化(小6から高1の女子を対象)
↓ わずか75日!
- 2013(H25)年6月 厚労省が積極的接種勧奨を一時的に差し控えるよう自治体に通知
→「十分な情報提供ができない」ため
- 2015(H27)3月 被害者連絡会が国(厚労省)・製薬企業に全面解決要求書提出
- 2016(H28)7月 被害者63名が国と企業を被告として全国4地裁で一斉提訴

2 HPVワクチンの特徴・問題点

(1) ワクチンの恩恵を受ける人はごくわずか。

- ・子宮頸がん発症に至るのは、HPV感染者の0.15%程度と言われており、HPVワクチンの恩恵を受ける人はごくわずかである。
- ・空気感染や飛沫感染等もなく、感染症予防の公衆衛生上の必要性は乏しい。

(2) ワクチンの対象となるウイルスの型が限定されている。

- ・HPVは「型」で分類する種類がたくさんあり、現在100種類以上が発見されている。そのうち15種類ほどが「発がん性HPV(ハイリスクHPV)」と呼ばれるもので、子宮頸がんの原因となる(ローリスク型HPVは子宮頸がんの原因にならない)。
- ・サーバリックスは16型・18型、ガーダシルは6型・11型・16型・18型(なお、6型・11型はローリスク型)を対象としており、他の型の感染は予防できない。
- ・日本人の子宮頸がん発症者のHPV型は、16型と18型をあわせて約半分程度という研究(琉球大)もあり、たとえワクチンが効果を完璧に発揮したとしても、半分程度しか予防できないことになる。したがって、HPVワクチンの予防接種を受けたとしても、子宮頸がんの検診自体は継続して受け続けなければならない。
- ・子宮頸がんは検診によって早期発見可能(早期発見の場合、子宮全摘の必要なし。妊孕性も保存される。)なため、ワクチン接種の必要性は乏しい。

(3) 臨床試験で確認されているのは、対象となる型のHPV感染及び前がん病変の

予防効果のみであり、子宮頸がん自体の予防効果が確認されているわけではない。
また、ワクチン効果の持続期間も不明。

(4) ワクチンの効果・目的を達成するための高いハードル

- ・通常のワクチンは、①局所感染はするが、病気が重症化するのを防ぐ（インフルエンザワクチンなど）、②局所感染はするが、その病気が発病するのを防ぐ（麻疹ワクチンなど）、といった仕組みであるのに対し、HPVワクチンは、③局所感染そのものを一生防ぎ続けなければならない（極めて高いハードル）。
- ・血中の抗体価を非常に高い状態で維持し、血管から粘膜に抗体を浸み出させることによって、細胞の核にウイルスが侵入するのを防ぐ（局所感染防止）必要がある。

(5) 高いハードルを越えるための新規・特殊なワクチン（アジュバントの問題も）

- ・HPVワクチンは、遺伝子組み換え操作でHPVのDNAを除去したVLP（ウイルス様粒子）を使用した、新しい技術を使ったワクチンである。

第4 問題になっている副反応について

1 問題になっている症状

運動系：歩行障害、不随意運動、痙攣、脱力、筋力低下等

感覚系：全身の疼痛、視覚障害、光・音・嗅覚過敏等

自律神経・内分泌系：月経障害、過呼吸、発熱、睡眠障害等

認知・情動系：計算障害、識字能力低下、記憶障害、パニック発作、無気力等

→自己免疫性の神経障害・自己炎症の症状を中心に、多様な症状が重層的に変化・展開。

2 HANS

症状及び経過の多様性をもつHPVワクチンの副反応の病像は、既存疾患では捉えきれない。一方で、その多様性は、共通の発症機序によって説明が可能である。そこで、これらは、HPVワクチンによる過剰な免疫反応が引き起こす1つの疾患群として統一的にとらえることが適切である。

2014年9月、日本線維筋痛症学会において、上記のような多彩な臨床症状を呈しているHPVワクチン接種後の疾患概念として、HPVワクチン関連神経免疫異常症候群HANS（HPV vaccination associated with neuro-immunopathic syndrome）が提唱された。

3 問題点

副反応被害者の症状は多種多様で、1年以上たってから症状が出るケースもありHPVワクチン接種との関連性に被害者自身が気づかない場合もある。

MRIやCTなどによる他覚所見を得にくい場合も多く、病院をたらい回しにさ

れたあげく詐病扱いされ、被害者が精神的にさらに傷つき追いつめられるという二次被害も多数発生。

症状発生のタイミングも、接種直後から発生する場合もあれば数ヶ月以上経過してから発生することもあり、症状が変遷したり進行したりする。

副反応の症状発生・進行の医学的機序も完全には解明されておらず、治療法も確立していない。

被害者は主に中学生～大学生の女性で、学校を退学したり、進学や将来の夢を断念したりするケースも多い。学校現場での理解・対応も不十分。

4 副反応の発生頻度など

承認～2019年4月末までの接種者数

※厚労省発表（出荷本数を2.4で割った推定）

サーバリックス 260万人	ガーダシル 82万人
合計342万人（推定）	

副反応報告件数はHPVワクチン合計で3187件（うち重篤1837件）

100万回接種あたり副反応報告件数（括弧内は重篤例）

100万回接種あたり	サーバリックス	361（211）
	ガーダシル	334（189）

※HPVワクチン計 355（204）

他のワクチンの100万回接種あたり副反応報告件数（括弧内は重篤例）

100万回接種あたり	麻しん・風しん	24（15）
	日本脳炎	24（12）
	水痘	22（15）

※予防接種法A類疾病10ワクチン計 42（27）

→厚労省の副反応の報告・調査システムは接種後28日間に発生した症状に対象を限定するなど、HPVワクチン副反応の実態に合致していない。追跡調査では、発症から7日以内に回復した人は調査対象から除くなど、調査結果と被害実態が大きく乖離している。

→問題の多い報告システムであるにもかかわらず、副反応出現率は高い。

HPVワクチンの被害は日本のみと誤解されている方もいるが、オーストラリアでは2015年2月までに3,404例、イギリスでは2015年6月までに8,243例等、海外でも多くの被害報告が出ており、米国やコロンビアでは訴訟も提起されている。

第5 被害者の救済

1 予防接種副作用に関する既存の救済制度

定期接種については予防接種法15条に基づく予防接種健康被害救済制度、任意接種については独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の医薬品副作用被害救済制度が存在するが、不十分である。

救済制度適用の可否は厚労省・PMDAの審議・判定によるが、救済の対象・範囲ともに、十分な救済がなされているとは到底言えない状況である。

2 訴訟で目指すもの

HPVワクチン薬害訴訟は、訴訟上の請求自体は損害賠償請求であるが、金銭的な賠償にとどまらず、恒久対策や再発防止を含めた解決を目指す訴訟である。

被害者の願いは、将来にわたって医療や生活全般にわたって安心して生きていけるようにすること、また、真相を明らかにして被害をくりかえさないようにすることであり、訴訟により国と企業の法的責任を明確にし、それを基盤に真の救済と再発防止を実現していきたい。

3 訴訟での主張のポイント

ワクチンも医薬品であり、有用性を欠くワクチンを承認し製造販売することは違法！

ワクチンは健康人に予防目的で接種するものであり、治療用の一般医薬品と比較してより高い有効性・安全性が必要になる。

さらに、緊急促進事業や定期接種により広く国民に接種を勧奨する場合、さらに高いレベルの有効性・安全性や公衆衛生上の必要性が要求される。

しかし、HPVワクチンの有効性には限界がある（対象となるワクチン型が限定されている問題や、効果の持続期間が不明であることなど）。

限定的な有効性と比較して、HPVワクチンの危険性は高い。他のワクチンと比較しても副反応の発生率は高く、自己免疫系の神経障害を中心とする深刻な副反応が多数発生している。

より効果的で安全な代替手段（検診）も存在し、有用性は認められない。

情報提供も不十分・不正確であった。

被害者に生じている損害は極めて大きく、国・企業の責任は非常に重い。

4 運動の重要性

訴訟が提起されたが、通常の訴訟活動だけではなく、マスコミや世論を巻き込んだ運動を起こしていくことは必要不可欠で、悲惨な被害の実態をより広く知ってもらうことが最重要。ワクチンによる被害であることを気づいていない被害者も多数いるはずであり、より多くの国民に情報を届ける必要がある。

原告団・弁護団もその点を意識していろいろな試みにチャレンジしており、今回の

資料の末尾に添付した手書きチラシは、原告本人らのアイデア・イラストにより作成したもの。

毎回の裁判期日で法廷傍聴席を満席にすることはもちろん、街頭でのビラ配りなど地道な活動も必要。政治家へのロビー活動も世論の後押しが鍵になる。

訴訟を中心に、うねりのような運動を展開していかなければならない。

ぜひ、みなさまのご支援をお願いいたします。

子宮頸がん
HPV ワクチンが
私たちの世界を変えた

急になくなった
いつも手足がこわたい

息が詰まる
過呼吸
動悸

からだのいろいろなところが
ずとずと痛い

寝ても起きても
ずとずと痛いよ

めまい
倦怠感
痛れやすい

目やが
痛い

ハンマーで
殴られたような
頭痛

サングラスを
しないと
目をあけた瞬間
光がまぶしい

1人に いろいろな症状が
重なって出ているよ

道が
分からない

1家は
どの?

カラダが
勝手に
重たい

どこに行くにも
車イス

どうして
分からないの?

100-7=93
93-7=?

簡単なことが
分からない

ずっと同じ
姿勢で
いられない

ま、すぐに
歩けたい

笑顔と未来を
未来のために

Keep Hope Alive

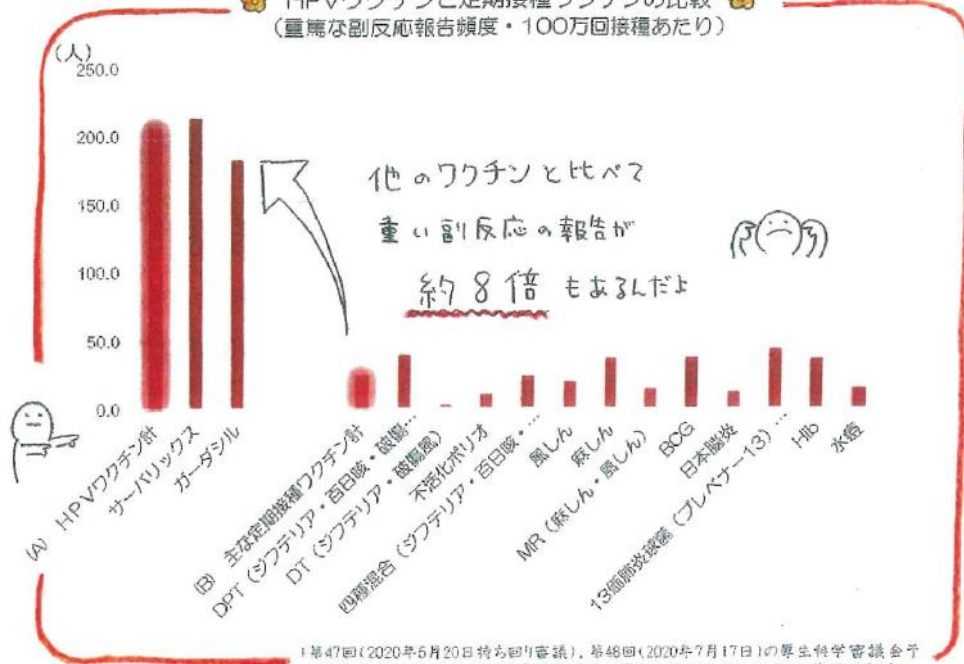
進学も
やりたいことも
できなかったら、た
だしいの?

詳しい副作用症状については
HPV ワクチン薬害訴訟全国弁護団のホームページをチェック

2020年9月発行 作成：HPVワクチン薬害訴訟全国原告団 連絡先：HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団

打つ前に知ってほしい ~ あなたには後悔してほしくないから

HPVワクチンと定期接種ワクチンの比較
(重篤な副反応報告頻度・100万回接種あたり)



第47回(2020年5月20日 持ち回り審議)、第48回(2020年7月17日)の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会の資料に基づき(HPVワクチンは第48回部会)。

だから国は今でも HPVワクチン接種の積極的な「お勧め」は中止しているんだね

厚生労働省が作成したリーフレット2013年6月版 抜粋

子宮頸がん予防ワクチンの接種を受ける皆さまへ

現在、**子宮頸がん予防ワクチンの接種を積極的にはお勧めしていません。**
接種に当たっては、**有効性**と**リスク**を**理解した上で受けてください。**

子宮頸がん予防ワクチンの有効性とリスクについて、お知らせします。ワクチンの利便性、その有効性と副作用(副作用には「副反応」といいますが)が比較リスクを十分に理解した上で受けるようにしてください。

子宮頸がんは、こんな病気

有効性 リスク

詳しくはHPVワクチン薬害訴訟全国弁護団のホームページをご覧ください。

Keep Hope Alive

作成: HPVワクチン薬害訴訟全国原告団
連絡先: HPVワクチン薬害訴訟全国弁護団 2020年9月発行